

(様式3)

自己評価結果票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	建物が高齢者には歩くことが難しい坂道の中腹にあり、また大きな道路に面している為、地域に出て行くことは難しい。現在は地域の方のボランティア等の受け入れは、併設施設と共同で行っている。		グループホーム単独でのボランティアの受け入れを検討したい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分が入居したい施設作りを目指して日々取り組んでいるが、新しい職員にも、同じ理念で取り組んでもらえているか不明である。		全職員間で意思統一出来るよう徹底していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近隣の小学校等への音楽会・運動会・とんど等へは毎年参加しているが、どれくらい理解してもらえているか分かりづらい。		近隣の住民の方にも気軽に立ち寄って頂けるよう、呼び掛けをするなど、工夫していきたい。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域行事等(盆踊りや学校行事)には参加しているが、施設行事への呼び掛けは、併設施設と共同であり、単独では行っていない。		単独行事等への呼び掛けを行い、気軽に立ち寄って頂けるよう働きかけたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	交流としては、こちらが出向くことはあるが、来てもらうことがない。		施設の年間行事としては月1～3回程度行っている為、地域の方々にも参加して頂けるよう、働きかけたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム単独としては実施していない。		もっと地域の方々に受け入れて頂けるようにする為にも、協力し合える環境作りに努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	努力してはいるが、実施出来ていないこともある。		より良い施設作りに向け、全職員で取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的開催され、議題も当施設の状況や地域交流の内容も話し合いされている。しかし、その内容をサービス向上には十分生かしてきていない。		次期、運営推進員の交代で、「知見の有する者」の参加が望まれる。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	神戸市の所管である、高齢福祉課と、定期的な連絡を行なっているが、サービス向上の内容までは、踏み込んでいない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修が、十分出来ていない。定期的な会議の開催が必要である。		権利擁護の外部研修の情報を地域包括支援センターなどから取り寄せ、積極的に参加し、報告会を行い、職員に周知徹底を図っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持っていないが、虐待につながり兼ねない事案については、上司から部下へ、またお互いに指摘しあっている。		勉強会等の機会を定期的に持ち、正しい知識を身に付けると共に、徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前の面接・契約の際に十分な話し合いを持ち、説明している。</p>	<p>現在も十分な話し合いが出来ていると思われるが、より話しやすい雰囲気作りに努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎日巡回にくる管理者、日々接する職員には言い易い環境にあると思われるが、苦情を運営に反映出来ない職員も中にはいる様子である。外部へは言えない環境にある。</p>	<p>入居者様のどんな小さな意見や不満、苦情も聞き逃さず、運営に反映出来るよう、徹底していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のホーム便りで、定期的にお知らせしている。また、ご家族様の来荘時には随時、主任もしくは担当職員が必要に応じてお話し、意見交換をしている。</p>	<p>こちらからの報告に対する意見や要望を今後のケアや入居者の生活に役立てていけるよう組み込んでいきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者のメールアドレスの公表を行い、意見や不満、苦情を聞ける場を持っている。必要に応じて、主任・職員に回覧し、運営に反映させている。</p>	<p>外部への意見の反映が出来るよう、相談場所の掲示を行いたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者が出席する、定期的な職員会議の開催の中で、施設運営に関することや業務内容についての話し合いを行っている。</p>	<p>今後も十分な意見の吸い上げを行い、施設運給に生かしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望に柔軟に対応する為の予備人員は設けられていない。</p>	<p>職員採用に努め予備人員が設けられるよう確保していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はやむを得ない場合を除いては行わず、馴染みの関係を作れるよう努めているが、特に離職においては、入居者や家族にダメージを与えている可能性があるのが現状である。</p>		<p>職員の意思統一に努め、離職者や異動希望者の数を減らしていきたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度の導入による、個々人の意欲の向上を狙うと共に、認知症研修への推薦・参加者による勉強会など、段階に応じた意欲の向上や知識習得に努めている。</p>		<p>定期的な施設内研修計画に則って、研修を行っていく予定である。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>取り組んでいない。</p>		<p>今後、施設連盟を通じての働きかけを行いたい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>気軽に相談できるよう環境作りに努めているが、全員がそう思っているかは不明である。</p>		<p>懇親会のようなものを企画し、気軽に相談し合えるような人間関係作りに取り組んでいきたい。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れ、個々が高い目標を持って、質の向上に取り組めるようにしている。</p>		<p>人事考課制度は導入して日が浅く、浸透していない部分もある為、皆が取り組み、質の向上につなげるようにしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めての顔合わせなどでも、気軽に相談できるよう、聞く姿勢を大切にしている。</p>	<p>笑顔で接することを心がけ、初めてでも不安を取り除けるような説明・受け答えが出来るよう努める。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初めての顔合わせなどでも、気軽に相談できるよう、聞く姿勢を大切にしている。</p>	<p>笑顔で接することを心がけ、初めてでも不安を取り除けるような説明・受け答えが出来るよう努める。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>併設施設や他の施設や他のサービスの利用など、状況に応じたサービスが受けられることも考慮し検討している。</p>	<p>併設施設や他の施設や他のサービスの利用など、状況に応じたサービスが受けられることも考慮し検討している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>はじめは今までの生活に程近いサービス内容から始め、少しずつ施設生活に馴染めるよう援助している。家族やなじみの関係のある友人や知人の面会など協力が得られるようお願いしている。</p>	<p>施設に慣れることも必要だが、入居直後も時間が経ってもより今までの生活に近づけるよう工夫したい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者とのかかわりの中で喜怒哀楽を共にし、その人らしい生活の援助、本人の意見の尊重に努めている。</p>	<p>日常的に喜怒哀楽を共にし、その人らしい生活の援助、本人の意見の尊重に努めている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族と共に入居者を支えていけるよう、呼び掛けや案内を出している。		協力を得られにくい家族も共に支えていけるよう、呼びかけてはいきたい。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の関係については、職員の知り得ない過去の事情があることもあるので、無理に良い関係を築いてもらうようにはしていないが、入居前と変わらない関係作りには心掛けている。		協力を得られにくい家族も共に支えていけるよう、呼びかけてはいきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人への連絡等できる限りの支援を行っているが、馴染みの場所への付き添いは基本的には家族に協力してもらえようお願している。家族の協力が得られない場合には職員の付き添いも検討するが、多くの時間を要する時には特例として検討する。		できるだけ入居者の希望が叶えられるよう、工夫していきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	どの入居者とも馴染みの関係が築けない入居者に関しては、職員が間に入って孤立しないよう援助している。他入居者との関係作りを望まない入居者には無理に関係作りを行わず、職員が馴染みの関係になるよう工夫する。		どの入居者も孤立したり、居場所がなかったりしないよう、見守りをし、工夫したい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例としてはわずかだが、今までの馴染みの関係のひとつとして、関係を断ち切らず、相談等には気軽に受けるようにしている。また、関係機関との連絡調整など、必要に応じて行っている。		新しい環境において不安がないよう、なじみの関係を大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来るだけその人らしい生活ができ、職員の押し付けにならないよう工夫している。</p>	<p>その人らしい生活を大切に、希望や意向を叶えていける環境作りをしていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族からの聞き取り、今まで利用していた施設からの情報提供表などから今までの生活の環境を把握するようにしている。</p>	<p>情報収集に心がけ、今までの生活歴を詳しく知るようにする。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の生活の中から気付いたことをケース記入し、情報共有しながら、一日の過ごし方、本人の興味のあること、心身の状況など把握するようにしている。</p>	<p>日々の生活の中から気付いたことをケース記入し、情報共有しながら、一日の過ごし方、本人の興味のあること、心身の状況など把握するようにしている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスを行い、本人・家族の意見を反映できるような話し合いを行っている。</p>	<p>ケアカンファレンスを行い、本人・家族の意見を反映できるような話し合いを行っている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画的に見直しできていない期間もあったが、カンファレンス施行日程をマニュアル化させ、取り組んでいる最中である。</p>	<p>定期的なカンファレンスの実施を徹底し、必要に応じて随時見直しを行っていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践・気づきや工夫、その結果等をケースに記入し、重要事項は寮母日誌に記入して情報共有している。</p>		<p>日々の様子やケアの実践・気づきや工夫、その結果等をケースに記入し、重要事項は寮母日誌に記入して情報共有している。それを元に介護計画に反映させていく。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設の介護サービスである特養やショートステイについての相談があれば、応じている。また、共同での行事の参加を行なっている。</p>		<p>併設施設の行事などに積極的に参加し、状況を把握してもらい、緊急時などの支援をお願いしていきたい。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>行なえていない。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>行なえていない。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議に参加してもらい、情報の提供を行なって尾らっている。</p>		<p>今後も引き続き、職員の研修などに支援を依頼したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・眼科・歯科など、定期的に往診に来てもらい、診察を受けている。		内科・眼科・歯科など、定期的に往診に来てもらい、診察を受けている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	症状の強い方、本人が症状に困っている方などは、定期的に心療内科などの受診をしており、本人・職員、希望時には家族も心療内科医師に相談している。		症状の強い方、本人が症状に困っている方などは、定期的に心療内科などの受診をしており、本人・職員、希望時には家族も心療内科医師に相談している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的には併設施設看護師による日勤帯での巡回、急変時には、昼夜問わず電話連絡による指示が受けられる体制を整えている。入居者の状態を良く知っており、相談しやすい環境にある。		日常的には併設施設看護師による日勤帯での巡回、急変時には、昼夜問わず電話連絡による指示が受けられる体制を整えている。入居者の状態を良く知っており、相談しやすい環境にある。職員全員が報告連絡相談をこまめに行えるよう徹底したい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中には面会・医療関係者との入院中の情報交換を行いながら、早期退院に向けての取り組み、退院後の対応に向けての情報交換を行っている。		入院期間中には面会・医療関係者との入院中の情報交換を行いながら、早期退院に向けての取り組み、退院後の対応に向けての情報交換を行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々に家族・本人の希望を聞いてはいるが、現時点で家族・本人は具体的に考えられず、職員間でも十分な共有は出来ていない。		本人や家族の意向を聞き、施設側の対応を考えていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	個々に家族・本人の希望を聞いてはいるが、現時点で家族・本人は具体的に考えられていない。職員間では、そのようなときに専門職（嘱託医師や看護師）を含めたチームとしての取り組みの準備は出来ている。		専門職のチームとして、具体化をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	事例の頻度は少ないが、ケアの方法が継続して行えるよう、先方へ申し送りを行っている。		事例の頻度は少ないが、ケアの方法が継続して行えるよう、先方へ申し送りを行っている。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員間での徹底が出来ていないのが現状である。		誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしている職員に関しては、都度指導をしていきたい。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	本人の意思が答えられるような言葉かけに心がけ、少しでも本人の希望に添える工夫をしている。		本人の意思が答えられるような言葉かけに心がけ、少しでも本人の希望に添える工夫をしている。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ほぼ平等に入居者の希望に添えるよう、出来る限りの支援をしている。		ほぼ平等に入居者の希望に添えるよう、出来る限りの支援をしている。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	希望する美容室がある場合、基本的には家族に協力を求めている。家族の協力が得られない場合には、職員の付き添いによる外出も検討するが、公平を保つ為、多くの時間を要するものは特例扱いである。		出来るだけ家族の協力の下、本人の希望に添えるよう協力を呼びかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	無理強いすることがない程度に、入居者による食事準備や後片付けを共に行っている。	食事準備や後片付けによって、食事が楽しみなものになるよう心がけたい。
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	管理出来る入居者に関しては本人に管理してもらっているが、賞味期限の管理、食べられない方へのお裾分け等、入居者の楽しみのみでない方に関しては職員が預かり、希望時はいつでも提供できる環境を作っている。	職員管理をすることに対して不満におもっている入居者に関しては、少しでも自由に摂取できるような環境作りを検討していきたい。
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	実際、年々尿取りパッドの使用者は増えてきている。トイレ誘導などをこまめに行い、出来るだけトイレで心地良く排泄できるよう工夫している。	自立した排泄に近づけるよう、工夫していきたい。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	1フロア隔日、どちらかのフロアで月～土曜まで毎日入浴できる環境であるが、よそのフロアに行っても入浴される方は少ない。時間帯も14時～16時までと決まっているが、その中で好きなタイミングで入れるよう工夫している。	気軽に毎日入れるよう、別のフロアとの交流を深めていきたい。また時間帯に関しても見守り程度の入居者に関しては、希望の時間帯に入れるよう、検討している。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	昼寝を希望する入居者に関しては自由に寝られる環境にあり、夜間不眠などのリスクを説明することもあるが、本人の意思にあわせている。	メリハリのある生活を送りつつ、本人のペースに合わせて休んで頂けるよう工夫している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	調理や編み物・詩吟の披露など、一人ひとりに応じて楽しみのある生活を送れるよう工夫している。	更に今までの生活歴の情報収集を行い、楽しみごとを増やしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つことで、常時不穩を招く(なくなった・盗った等で他入居者とトラブルになる、金銭の貸し借りによるトラブル)などの支障がない限り、希望により本人管理・施設管理を選んで頂いている。トラブル防止の為、金額は本人・家族と相談し決めている。</p>		<p>本人や家族と相談しながら、出来るだけ自己管理できるよう支援していきたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>季節柄実施できない時もあるが、気分転換や運動不足解消など、本人の希望に沿って外出できる機会を設けるようにしている。</p>		<p>暖かい季節には、散歩や買い物などに行っている。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>頻度的には少ないが、美容室や買い物など、入居者の希望に応じて行けるよう工夫している。基本的には家族の協力を得ているが、協力が得られない場合には職員の付き添いによる外出も都度検討しているが、公平を保つ為、時間の長いものは特例扱いである。</p>		<p>家族の協力が得られない方の援助を今後検討していきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>居室に電話を引けるようにしているが、現在全員引いておられない。使用する際は共用の電話を使用することとなる。手紙は私的な郵便物に関しては本人にお渡ししている。</p>		<p>電話を希望する方がいたら、居室に引くことも検討し、出来るだけ自由に電話が出来るようにしていきたい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>基本的には面会時間を定めているが、それ以外での面会も常識範囲内の時間であれば受け付けており、気軽に訪問できる環境にある。面会中は居室や共用部分など、入居者や面会者が過ごしやすい場所での面会をして頂いている。</p>		<p>基本的には面会時間を定めているが、それ以外での面会も常識範囲内の時間であれば受け付けており、気軽に訪問できる環境にある。面会中は居室や共用部分など、入居者や面会者が過ごしやすい場所での面会をして頂いている。</p>
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員への徹底は出来ていない。</p>		<p>今後年2回の身体拘束・高齢者虐待の施設内研修を定例化し、正しい知識を身に付けていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りが主だが、玄関ブザーを併用し、施設内外への出入りを把握しており、日中は施錠はしていない。		見守りが主だが、玄関ブザーを併用し、施設内外への出入りを把握しており、日中は施錠はしていない。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	随時入居者の安否確認・所在確認を行いながら、入居者が自由に生活できるよう援助している。		随時入居者の安否確認・所在確認を行いながら、入居者が自由に生活できるよう援助している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守り出来ない時間帯では、刃物や洗剤類など、危険物や誤嚥の可能性のあるものは、目の届きにくいところに保管している。見守りの範囲内で、入居者と共に使用できる環境にある。		見守り出来ない時間帯では、刃物や洗剤類など、危険物や誤嚥の可能性のあるものは、目の届きにくいところに保管している。見守りの範囲内で、入居者と共に使用できる環境にある。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書・ヒヤリハット報告書を回覧し、随時話し合いを行い再発防止に努めている。また、危険予測が出来る様、本人のサインを見逃さないようにする対処や、パターンの予測をし、再発防止に努めている。		施設内研修を実施し、事故防止に関する知識を習得していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの設置はしているが、全職員による訓練は行っていない。急変や事故発生時に近隣に住む職員による応援体制は整えている。		マニュアルの再確認を行うとともに、事例を用いて応急手当や初期対応の訓練を行ってほしい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時、入居者が避難できる体制はシミュレーションしているが、地域住民の協力を得られるようには働きかけていない。		地域の人々の協力が得られるよう、呼びかけてほしい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	リスクについても家族と相談した上で理解して頂 き、出来るだけ自由にのびのびと生活していただ ける様工夫している。		リスクについても家族と相談した上で理解して頂 き、出来るだけ自由にのびのびと生活していただ ける様工夫している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	同僚や上司と相談し、必要に応じて看護師や医師 へ報告するなど、連絡体制をとり、速やかに対応 出来る様工夫しているが、自己の判断によりまち まちである。		自己の判断によりまちまちなので、皆が同じよう に情報共有できるようにしたい。
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	全職員が理解しているとは思えない。		全職員が服用中の薬について理解し、ケアに役立 てられるよう統一したい。
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	排便の記録を見て、水分補給や腹部マッサージ、 温電法・果物の提供・体操など工夫している。		水分補給や腹部マッサージ、温電法はいつでも出 来るが、果物の提供は果物の在庫のある時のみに なっているのが現状で、自由に果物の摂取が出来 るよう工夫したい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食後、個人の状態に応じて、声かけ・見守り・ 介助を行い、チェックしている。		口腔ケアの大切さを全職員が理解し、丁寧に行え るよう、正しい口腔ケアの方法を学んでいきたく い。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の記載は行っていないが、都度水分を 提供し、摂取量の少ない方には、声かけや介助な ど必要に応じて促している。食事も栄養バラン スも、偏食のある方には少しでも摂取できるよう 提供方法を工夫するなどして促している。		全職員が統一して水分摂取の必要性を理解し、促 せるよう呼びかける。必要があれば水分チェック 表の作成する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを設置し、各職員に回覧している。感染症の流行する時期には、張り紙により、面会者による持ち込み防止の周知徹底を呼びかけている。		予防や対応の知識が全職員間で把握できるよう、勉強会を開催したい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食前の手指消毒、毎食前後のテーブル消毒、毎食後の食器洗浄機による食器洗浄・熱湯消毒・床の掃除、外出後の手洗い・うがい、週1回以上のおまな板等のハイター消毒を徹底している。厨房より食材を調達し、新鮮な食材の使用をしている。		毎食前の手指消毒、毎食前後のテーブル消毒、毎食後の食器洗浄機による食器洗浄・熱湯消毒・床の掃除、外出後の手洗い・うがい、週1回以上のおまな板等のハイター消毒を徹底している。厨房より食材を調達し、新鮮な食材の使用をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設入り口は分かりづらいが、日中玄関には施錠しておらず、入居者・家族・面会者等出入りしやすい環境にある。		施設入り口は分かりづらいが、日中玄関には施錠しておらず、入居者・家族・面会者等出入りしやすい環境にある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	午前中は朝日が眩しくカーテンを閉めて電気で調節し、昼前からはカーテンを開けて自然の光を取り入れ、離宮公園や須磨海岸などの景色を楽しむ方も多い。		壁画などの装飾などで季節感を表現しつつ、生活感あふれる環境作りに努めたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に長いすを配置し、思い思いに過ごせる空間を作っている。入居者の心地良い場所がそれぞれ違う為、それにあわせてフロアごとに配置を変えている。		所々に長いすを配置し、思い思いに過ごせる空間を作っている。入居者の心地良い場所がそれぞれ違う為、それにあわせてフロアごとに配置を変えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ入居前に使用していたもので統一し、馴染みの空間を保っている。極力職員が手を加えずすぎないように、タンスや押入れなどの居室の整理を本人の好みや使い易さに合わせて援助している。		出来るだけ入居前に使用していたもので統一し、馴染みの空間を保っている。極力職員が手を加えずすぎないように、タンスや押入れなどの居室の整理を本人の好みや使い易さに合わせて援助している。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決めてはいないが適度に換気をしている。フロアに温度計を設置し、温度調節に努めている。居室内は、本人の生活パターンに合わせて、都度調節している。		換気扇の使用や窓の開放など上手に使い分け、心地良い環境作りに努めたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内に限っては、安全に生活できる空間作りが出来ていると思われる。浴室は若干難ありだが、見守りにより、安全に入浴出来る様工夫している。		室内に限っては、安全に生活できる空間作りが出来ていると思われる。浴室は若干難ありだが、見守りにより、安全に入浴出来る様工夫している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る限り入居者と共に日常生活が送れるよう工夫している。個人の残存能力にも差がある為、全員には実施できていない部分もある。		出来ることを見つけ出し、共に生活していきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	季節によって個人が花を育てるなどされることもあるが、施設側から提供するのではなく、家族が持参して楽しむ程度である。居室からベランダに出入りする際、わずかであるが段差があり、転倒防止の為、特に活用する予定はない。		見守りを行いながら、ベランダが危険なく活用できないか検討したい。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

立地条件が良くない(大きな道路に面しており、坂道である・近くに商店などが無い)中で、出来入る限りのことに努め、月ごとの行事等には力を入れている。家族参加型の行事も年々増やし、参加率も良くなってきている。年2回の家族会は定例化しており、会議・食事会・日帰り旅行の3部構成による家族会の参加率は8割~10割ほどになってきている。他入居者の家族が他入居者と会話したり、レクリエーションに参加したりと良い関係作りが出来ているように思われる。また、面会時に今まで職員に任せきりだったご自身の家族(入居者)の介護をされるようになった家族も増えてきた。入居者と家族・家族と職員の関係は良いように思われる。